

研究課題名	A病院におけるRapid Response Systemの要請を躊躇する要因の検討
研究機関名	日本赤十字社 武蔵野赤十字病院
研究責任者	所属 救命救急センターICU /RRS部会 氏名 中村真依子
研究期間	(西暦) 2024年7月 ~ (西暦) 2025年3月
研究の意義・目的	<p>A病院では2017年よりRapid Response System [RRS] を導入し、院内での予期せぬ心停止・ICU入室・死亡を予防することを目的に活動してきた。当院のRRSにはRRSコールと院内ホットラインの2種類が存在し、RRSコールの目的は、患者の変化に気づき、10分以内に医師による対応を開始することで、患者の重篤化を防ぐことを目的としている。一方、院内ホットラインは、より重篤で生命の危機に瀕している状況の患者に対し、緊急時対応に慣れたチームによる効果的な速度対応の提供を目的としており、これらにはそれぞれ要請基準を設けており要請方法も異なっている。</p> <p>本研究では、RRSの要とも言える「機動力」に着目し、職種間の違いやシステムの要請基準の理解度、要請方法の理解度などの関連を統計学的手法で調査することにより、より具体的な今後のRRS運営の課題を見出すことができると考えた。</p>
研究の方法 (対象期間含む)	<p><b>【方法】</b> 2024年1月16日～2024年2月15日に院内情報観覧システム「デスクネット」上で実施された「Rapid Response Systemに関する意識調査アンケート」に協力の得られた538人のアンケート回答結果を利用する。その中で、RRSコールを躊躇した経験があると回答された188名と躊躇した経験はないと回答された158名、また、院内ホットライン要請を躊躇したことがあると回答された102名と躊躇した経験はないと回答された226名のデータをそれぞれ抽出し調査対象とする。</p> <p>統計解析の手法は下記の通りである。</p> <p>(1) RRSコールについて</p> <p>①RRSコール要請を躊躇した経験があると回答された188名と躊躇した経験はないと回答された158名を2群にわけ、Shapiro-Wilkの検定により正規性の確認を行う。</p> <p>②単変量解析として、まず、職種、RRSコール要請の経験の有無、RRSに関する説明や指導を受けた経験の有無といった名義変数に関しては、カイ二乗検定を行い、RRSコールの要請基準や要請方法に関する理解度に関しては、全く理解していない=1点、あまり理解していない=2点、どちらともいえない=3点、まあ理解している=4点、とても理解している=5点とし、順序変数として、Mann-WhitneのU検定を行う。</p> <p>③多変量解析として、②で有意差が見られたものを独立(説明)変数としてロジスティック回帰分析を行う。</p> <p>(2) 院内ホットラインについて</p> <p>①院内ホットライン要請を躊躇した経験があると回答された102名と躊躇した経験はないと回答された226名を2群にわけ、Shapiro-Wilkの検定により正規性の確認を行う。</p> <p>②単変量解析として、まず、職種、院内ホットライン要請の経験の有無、RRSに関する説明や指導を受けた経験の有無といった名義変数に関しては、カイ二乗検定を行い、院内ホットラインの要請基準や要請方法に関する理解度に関しては、全く理解していない=1点、あまり理解していない=2点、どちらともいえない=3点、まあ理解している=4点、とても理解している=5点とし、順序変数として、Mann-WhitneのU検定を行う。</p> <p>③多変量解析として、②で有意差が見られたものを独立(説明)変数としてロジスティック回帰分析を行う。</p>

<p>①試料・情報の利用 目的及び利用方法 (匿名加工する場合や 他機関へ提供される場 合はその方法含む)</p> <p>②利用し、又は提供す る試料・情報の項目</p> <p>③利用する者の範囲</p> <p>④試料・情報の管理 について責任を有す る者の氏名又は名称</p>	<p>①前回の実態調査の結果を受け、RRSの要とも言える「機動力」に着目し、これまでにそれぞれのシステムの要請を躊躇した経験があると回答された群と躊躇した経験はないと回答された群の2群間で、職種間の違いやシステムの要請基準の理解度、要請方法の理解度などの関連を統計学的手法で調査することにより、より具体的な今後のRRS運営の課題を見出すこと。</p> <p>②2024年1月16日～2024年2月15日に院内情報観覧システム「デスクネッツ」上で実施された「Rapid Response Systemに関する意識調査アンケート」のデータ。</p> <p>③②のうち、RRSコールを躊躇した経験があると回答された188名と躊躇した経験はないと回答された158名、また、院内ホットライン要請を躊躇したことがあると回答された102名と躊躇した経験はないと回答された226名のデータを利用。</p> <p>④下記</p>
<p>問合せ先</p>	<p>当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ</p> <p>〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 救命救急センターICU 氏名 中村真依子</p> <p>TEL : 0422-32-3111 (代表) 6812 (事務局内線) FAX : 0422-32-3525</p>